

鳥羽はあなたに恋しています。

こころをときめがせるものは、何気ないところに潜んでいます。

ゆっくり、たっぷりと時間をかけてめぐること、

思いがけないものに出逢ったりするものです。

もう1歩、もう1歩奥まった道へ踏み込んでいくと、

まだ見ぬときめきが待っているかもしれません。

うつくしい海、独自の暮らしぶりを今にのこす離島、

受け継がれる海女文化。鳥羽には日本のうつくしい営みが

そこかしこに息づいています。

ゆったりとここちよい鳥羽の出で湯。

旅を深くゆたかにしてくれる海の幸、山の幸。

自然の恵みもたっぷり…。

あなたはどんな鳥羽をすきになってくれるでしょうか。

想像しただけですこしドキドキ。

あなたに喜んでもらいたい。しあわせな気分になってもらいたい。

鳥羽はあなたに恋しています。

恋する鳥羽

鳥羽には…神様に愛された豊饒の海があります。

約 2000年前、天照大神は、海の幸に恵まれ、美しい白波が寄せる伊勢志摩を「可憐国」と称え、伊勢に鎮座されました。これが伊勢神宮のはじまりです。

天照大神をご案内した皇女・倭姫命が、鳥羽の国崎を訪れたとき、地元
の海女が差し出した鮑のおいしさに感動し、天照大神に毎年献上するよう命じられました。

以来、国崎は伊勢神宮の神饌（神様に捧げる供物）を調進する御贄処になりました。鮑は神饌の中でも特に重要とされており、それは、昔も今も国崎で獲れたものなのです。

神様に愛された海の幸は古代の天皇をも魅了しました。伊勢志摩は朝廷に魚介類などを納める「御食国」のひとつ。万葉集には、「御食国 志摩の海人ならし 真熊野の 小船に乗りて 沖へ漕ぐ見ゆ（第六巻）」や、鳥羽の離島・答志島を舞台に詠んだ「釧着く 手節（答志）の崎に 今日もかも 大宮人の 玉藻刈るらむ（第一巻）」などの歌が残されています。

神話の時代から、人々の命をはぐくんできた鳥羽の海。

その海は遥か昔と変わることなく、今日も、私たちに豊かな恵みをもたらしてくれます。



鳥羽と伊勢神宮



日本の祝い魚

古来、神饌として伊勢神宮に献納される鮑をはじめ、長寿の縁起物である伊勢えびや「めでたい」につながる鯛は、お祝いの席には欠かせない海の幸。そこで、鳥羽ではこの三種を「日本の祝い魚」と名付けました。鳥羽の豊饒の海で育った鮑、伊勢えび、鯛は絶品です。伊勢神宮のお膝元・鳥羽で獲れた新鮮な「日本の祝い魚」をお楽しみください。

